



大東 真也さん (23歳・小平井)

京都精華大学 芸術学部造形学科 立体造形コースを経て、今春から同大学の大学院芸術研究科 博士前期課程 立体造形専攻。

去年は、「第71回滋賀県美術展覧会」立体の部で芸術文化賞(写真右は、受賞作品「海のかたち」)、「第4回藝文京展」で京都市長を受賞。若い感性で創作し続けている。



■立体造形を始めたきっかけは？
趣味で劇団の座長を務めていた父の影響が大きいです。小さな頃から舞台で使うものをつくったり、舞台道具で遊んだり、「つくること」が身近にありました。高校2年生の秋から、芸術大学入学を目指して、画塾に通い、デッサンを始めました。大学のオープンキャンパスで立体造形に出会い、志望しました。

■作品に込める思いは？

ガラス瓶、空調ダクト、塩化ビニルファイルなど日常の中で埋もれがちな素材で作品をつくっています。中でもガラスは実用品である工芸に使われることが多く、芸術の素材として使うことに非常に魅力を感じています。今まで「魂の行方」という

統一したタイトルでガラスを使った約30作品を発表してきました。

写真で手に持っているのは、昨年12月に2週間かけてつくった作品です。ガラス瓶に熱を加えて溶かし、「瓶」という今生きている生活サイ

クルから逸脱させ、「ガラス」という素材そのものに戻しました。ガラスが溶ける必然性の中にある偶然性の造形美が現れた作品で、見た人それぞれに感じてもらえたらと思います。透け方、透明感の中にある堅さ、素材の強さなど、偶然が重なって作品ができるのもおもしろさの一つです。

■今後の夢は？

大学に入学当初、福井県鯖江市でアートを使ったまちおこしに関わり

ました。「大きなものを焼いて作品にしたい」と地域のひとみこしを担ぎ、最後に田んぼでみこしを含め、12時間木材を焼きました。固定観念を打ち砕いたり、熱を加えるイメージが今とつながり、自分の原点のような気がします。海外展示も経験し、卒業作品では、直径3mの窯を手作りして1000本以上のガラス瓶を焼きました。

もともと家具を作りたいだったので、プロダクトデザイン志望でしたが、立体造形に出会い、選択肢が広がりました。今後もお会いや人との関わりを大切に、作品をつくり続けていきます。



企画サークルで関わった鯖江市でのまちおこしが原点。作品一覧は、<https://www.instagram.com/masayadayo000/>

軽費老人ホーム 入居者募集中

豊富な経験と実績が
あなたの幸せな老後を
しっかりサポートします

広くてゆったり暮らせる
夫婦部屋空いています!
個室も 42室あります

高齢者ケアの総合施設 60歳から入居可

社会福祉法人 八起会



石部ケアハウス ☎0748-77-0025

<http://www.hachikikai.com> ※お気軽にお電話ください。

555 Reliable Quality for Tamawaru
三恵工業株式会社 当社製品の一例

自動車用補修部品(特にサスペンション、ステアリング系部品)のメーカーとして国内を始め、世界120以上の国、地域のお客様に高い信頼を頂いております。

〒520-3045 滋賀県栗東市高野 305
tel.077-553-0555 fax.077-553-2408
<http://www.sankei-555.co.jp/jp/>
旧車ブランド: 555GOLD
<http://555gold.spk-cuspa.jp/>
びわこ放送にてCM 放映中

全日本ラリー選手権JN-677にTHREE FIVE MOTORSPORTとして、参戦しています。

広告欄 有料広告掲載のお申込み・お問合せは 広報課 ☎551-0641 ☎554-1123へ(掲載料金:本文最終ページ:1枠30,000円) 掲載内容のお問合せは、直接広告主へ。内容に関する一切の責任は広告主に帰属し、市が推奨するものではありません。



人口(4月1日現在) 人口68,817人 男34,296人 女34,521人 前月より131人減 世帯数27,335世帯

この広報紙は、古紙配合の再生紙とベジタブルインクを使用しています。